

エネルギー政策についてのアンケート調査

県では、平成28年3月に策定した『しがエネルギービジョン』に基づき、「原発に依存しない新しいエネルギー社会」の実現に向けた取組を進めているところです。

『しがエネルギービジョン』

<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/ondanka/16965.html>

今後、ビジョンに基づく施策の更なる推進を図っていくにあたっての参考とするため、アンケート調査を実施しました。

★調査時期：令和2年5月

★対象者：県政モニター399人

★回答数：375人（回収率94.0%）

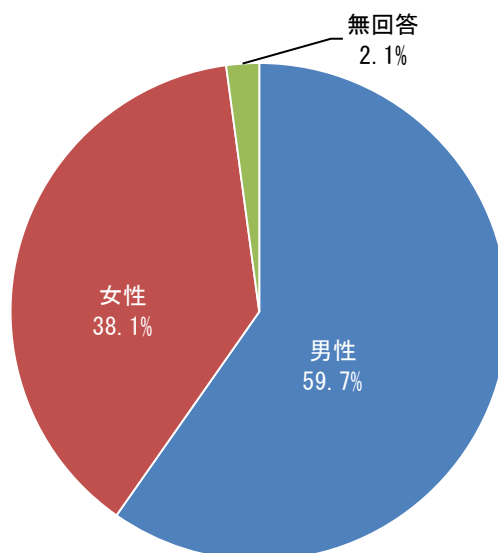
★担当課：総合企画部 エネルギー政策課

※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。

【属性】

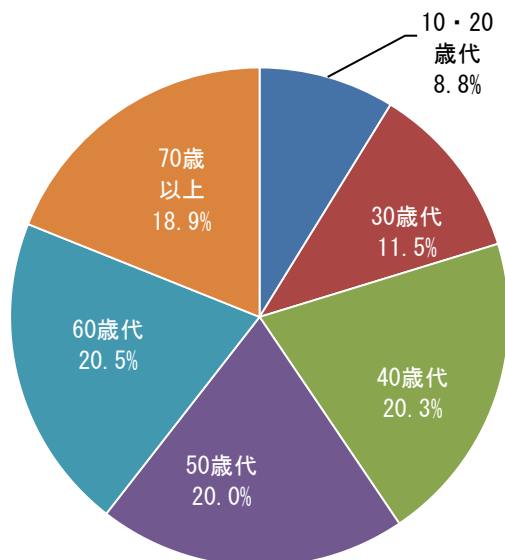
◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	224	59.7
女性	143	38.1
無回答	8	2.1
合計	375	100.0



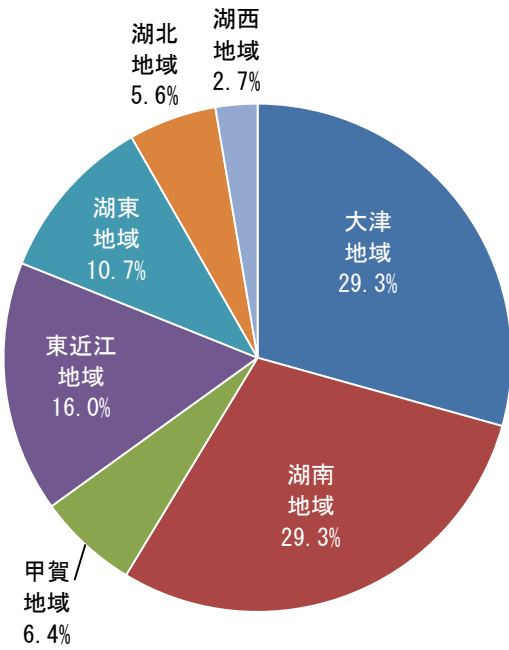
◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	33	8.8
30歳代	43	11.5
40歳代	76	20.3
50歳代	75	20.0
60歳代	77	20.5
70歳以上	71	18.9
合計	375	100.0



◆地域

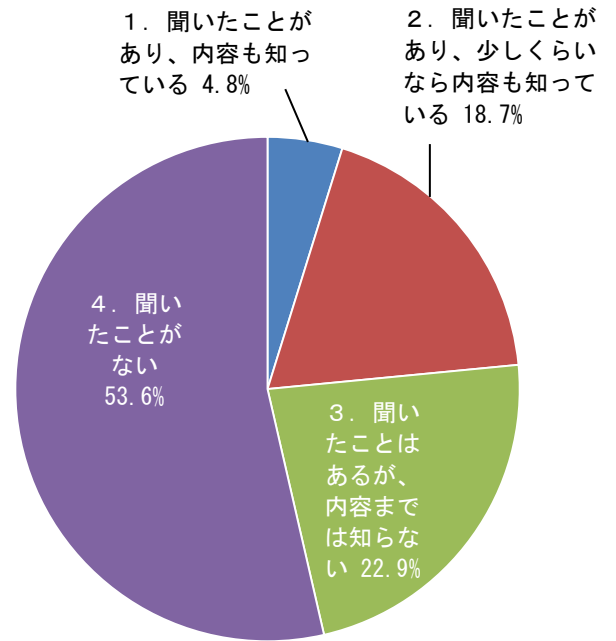
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	110	29.3
湖南地域	110	29.3
甲賀地域	24	6.4
東近江地域	60	16.0
湖東地域	40	10.7
湖北地域	21	5.6
湖西地域	10	2.7
合計	375	100.0



■「しがエネルギービジョン」全般についてお尋ねします。

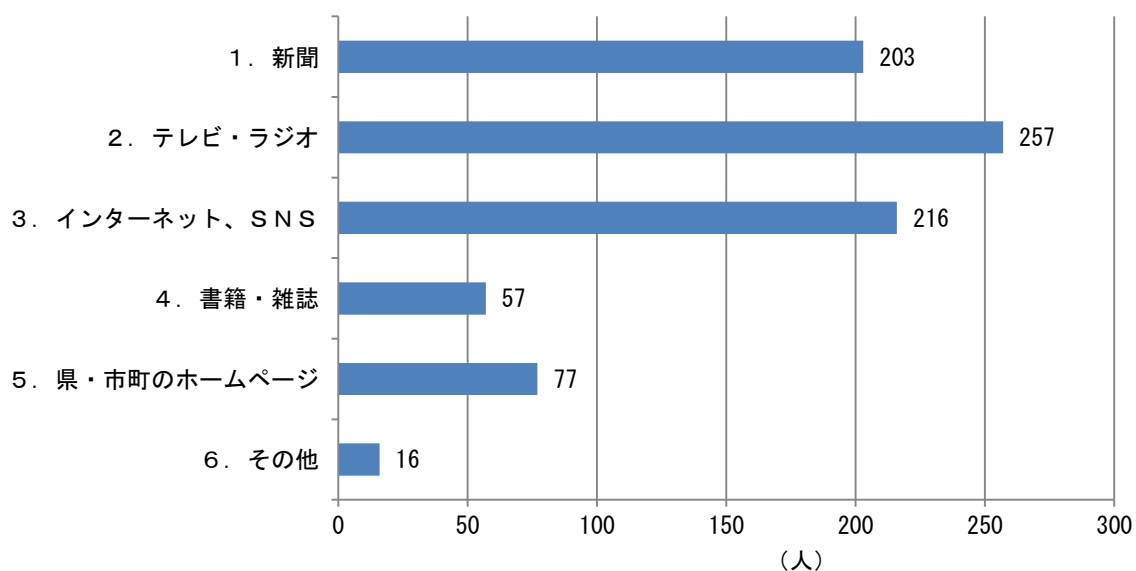
問1 「しがエネルギービジョン」を知っていますか。(回答チェックは1つだけ。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 聞いたことがあり、内容も知っている	18	4.8
2. 聞いたことがあり、少しくらいたら内容も知っている	70	18.7
3. 聞いたことはあるが、内容までは知らない	86	22.9
4. 聞いたことがない(このアンケートで初めて知った)	201	53.6
合計	375	100.0%



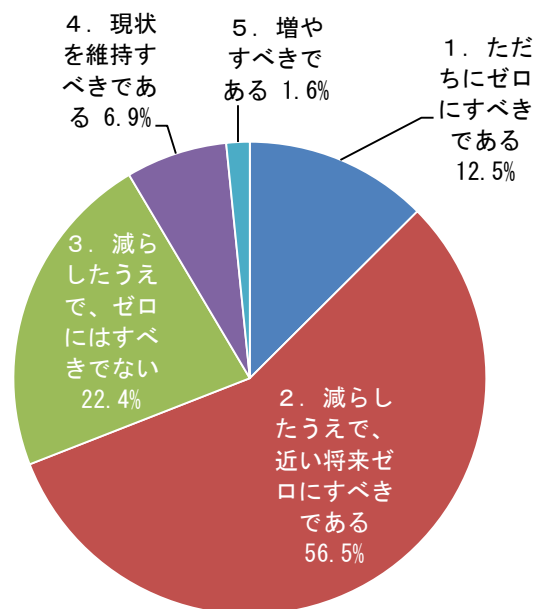
問2 日頃、エネルギーに関する情報はどこから入手していますか。(回答チェックはいくつでも。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 新聞	203	54.1
2. テレビ・ラジオ	257	68.5
3. インターネット、SNS (Facebook、Twitter等)	216	57.6
4. 書籍・雑誌	57	15.2
5. 県・市町のホームページ	77	20.5
6. その他	16	4.3



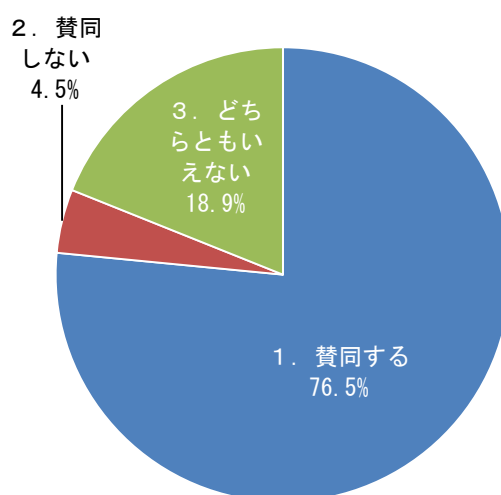
問3 原発依存度を中長期的にどうしていくべきと思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. ただちにゼロにすべきである	47	12.5
2. 減らしたうえで、近い将来ゼロにすべきである	212	56.5
3. 減らしたうえで、ゼロにはすべきでない	84	22.4
4. 現状を維持すべきである	26	6.9
5. 増やすべきである	6	1.6
合計	375	100.0%



問4 滋賀県では、「しがエネルギービジョン」の基本理念に「原発に依存しない新しいエネルギー社会」の実現を掲げ、原発に依存せず、「社会」(災害等のリスクに強い安全・安心な社会)、「環境」(低炭素な社会)、「経済」(地域内経済循環による地方創生)をも同時に満たす、持続可能な新しいエネルギー社会の実現を目指していますが、この理念についてどのように思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 賛同する	287	76.5
2. 賛同しない	17	4.5
3. どちらともいえない	71	18.9
合計	375	100.0



問5 問4で、その答えを選択した理由を記入してください。(抜粋)

「1. 賛同する」を選択した理由

- ・悲惨な原発事故があり、恐怖に怯えながら生活するのは辛い。原発に依存しないエネルギーというのは、大きく賛同できる。
- ・3.11以降、原子力発電の安全性に関する現状、課題や見通しについて色々報道されてきているが、未だにはっきりと先が読める状態にない。代替エネルギーをはやく確立して、原発依存からはやく脱却すべきだと考えている。
- ・原発は今も未来にも不安が残る。災害等で物を失ったとしても「大丈夫！やり直せる！みんなで生きていける」と、心を強く持てるように、再生可能で環境負荷の少ないエネルギーが必要だと思う。そのような新エネルギー社会を創造していく事は、生きる希望に繋がっていくと感じたので、賛同した。
- ・東日本大震災で原子力発電所の怖さを知り、滋賀県でも近くにある原子力発電所での事故が起って琵琶湖の水が汚染される恐れがあるため。
- ・原発の廃棄物や使用済み燃料の処理方法も確立されず、総合的な運用費や事故時の対応を考えても、再生可能エネルギーに注力すべきである。
- ・この理念を判断基準に各種政策を立案、推進することを考えると、良い理念だと思う。
- ・原発の危険性を考えれば将来的にはなくすべき。ただ過渡期に関しては、より高い安全率を課した上で必要悪として付き合うべきものと思っている。
- ・滋賀は、琵琶湖があり、山があり自然エネルギーを蓄える力があると思う。
- ・東日本大震災が起こったことで、原子力発電は、始まりは良くても、出口が見えないことがはっきりした。やはり安全に運転でき、安全に運転終了でき、処理できるものでないと、皆が納得する形にならない。誰かに押し付けたり押し付けられたりは不幸。現実的に、少しずつ依存度を低くしていく継続的な努力は、必要だと考える。
- ・単純に原発を減らすことを提言するだけでなくそれに変わるエネルギーの提言もできている。またバイオマス利用や再生可能エネルギーの利用の推進も賛同できる内容だと感じた。
- ・安心、安全、環境に優しいエネルギーを考えると原子力発電に頼らない事が一番と考えるが、経済活動と原子力は切り離せない。経済活動を優先する訳ではないが、安全、安心、環境を考慮しながら共存していかないと駄目だと思う。原子力発電が全ていけないと全否定するのではなく、良い所は伸ばしつつ、環境と経済を発展させて頂きたい。
- ・エネルギーは生活にとっても大切なものだと思う。原発の技術は必要悪なのかもしれないが、広くバランスをとって付き合っていく必要はあるのかなと思う。どちらにしてもリスクは下げていかなければいけないと考える。
- ・地震などの際の、放射能漏れが怖い。また環境に優しい代替エネルギーの開発、使用を進めていくべきと考えているので。

「2. 賛同しない」を選択した理由

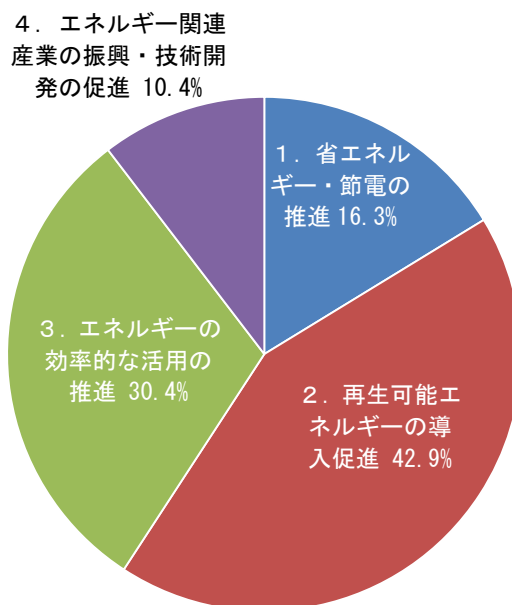
- ・しっかりとリスクに対応すれば原発は極めて優秀な発電方式であるため。
- ・一方的に原発を止めたのは愚策であり、システムは動いている時が一番安全性が高いので、短期的には原発を稼働し、中長期的に次なるエネルギーの組み合わせを検討するほうが、今ある社会を維持できると思う。
- ・今回のコロナウイルスのように、現代社会は何か起こるかわからないので、自然エネルギーのみに依存するのは危険。幅広いエネルギーを確保しておくべき。
- ・現在の電気料金の高止まりを解消できない。電気料金を下げ国民負担を軽減する方法を模索してほしい。

「3. どちらともいえない」を選択した理由

- ・言うのは簡単だが、理想と現実は違う。単なる理想だけで終わらないか、本当に実現できるのか、疑わしい。
- ・原子力発電を減らしたいのはやまやまなれど、現代社会生活の電力依存度の高さを考えると、安定供給という面では原子力発電に頼らざるを得ないと思うから。
- ・もちろん安全なのがいいが、原発なしで、ちゃんと安定した供給ができるのか、エネルギー料金が高くないか、少し不安もある。
- ・低価格でエネルギーを使用できる環境には原発は必要だと思う。しかし、事故があってはいけないのでどちらでもない。
- ・原発排除の理念は同意できるが、そのビジョン実施に向かったの具体的方策が見えない。

問6 「しがエネルギービジョン」に掲げる4つの基本方針のうち、もっとも重点的に取り組むべきだと思うのはどれですか。(回答チェックは1つだけ。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. エネルギーを「減らす」(省エネルギー・節電の推進)	61	16.3
2. エネルギーを「創る」(再生可能エネルギーの導入促進)	161	42.9
3. エネルギーを「賢く使う」(エネルギーの効率的な活用の推進)	114	30.4
4. 上記(選択肢1~3)の3つの取組を「支える」(エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進)	39	10.4
合計	375	100.0



問7 問6で、その答えを選択した理由を記入してください。(抜粋)

<p>「1. 省エネルギー・節電の推進」を選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギーを創ることも大事だが、まずは減らすことから始めたほうがよいと思ったから。 ・ 一人ひとりが常に省エネルギー、節電を心がければ、エネルギー削減につながり危ないエネルギーを使わずにおけると思う。 ・ 日常生活において、すぐに取り組み、一人ひとり意識すれば大きなエネルギー政策に繋がる。 ・ 省エネルギーにより原発を廃止してもエネルギーの不足は補えるようにするのがよい。企業も個人も省エネルギーに取り組むべき。

「2. 再生可能エネルギーの導入促進」を選んだ理由

- ・先に原発に代わるものを創らなければエネルギーを減らしても使用し続けては意味がないと思うので。原発の存在が危険だと思うから。
- ・節電することも大事なことだが、温暖化が進み思うように節電できないこともある。節電にも意識を向けながら、再生可能エネルギーが利用できるよくなればと思う。
- ・例えば太陽光などの自家発電の普及率が高ければ、普段からの利便性はもちろん、災害等で電力供給が困難になってしまった場合に、電力不足による不便さをある程度は抑えることが出来ると考えるから。
- ・滋賀県には再生可能エネルギーを導入するための基盤（土地や環境）が豊富で、まずはエネルギーの地産地消ができるようになることが重要だと考えるから。
- ・原発依存度を下げるためには、代替エネルギーの確保が必須であるため。
- ・うまく創り出せれば、滋賀県の産業になると考える。他府県に販売出来るほどになれば目減りする税金の穴埋めになれば良いと考える。
- ・今使っているエネルギーを減らすことは大変な努力と忍耐が伴うと思う。その点再生可能エネルギーはあるものからエネルギーを創り使えるわけなので、負担もない上に怖さもないので安心安全だと思う。
- ・節電や使用方法を工夫しても、エネルギーの使用は必須。後世の未来でも安心して使えるエネルギーの創造が急務だと思う。

「3. エネルギーの効率的な活用の推進」を選んだ理由

- ・賢く使えれば節電にもつながると思うから。
- ・今までに既にかかなりの省エネは推進されていると思うので、これからは上手な活用に重点をおくべきだと思うから。
- ・減らすは不便さを受け入れる、造るはコストアップを甘んじるなど生活に犠牲を伴うものになると考える。3は知恵を絞ればまだなんとかなる余地があると思っており、これを選定した。
- ・エネルギーを減らす、創るも確かに重要だが創ったエネルギーを効率的に使うことがエネルギーの削減にもつながると思うから。
- ・減らすと創るは、当たり前のことである。大切なことは、限られた資源をいかに有効に使うかである。
- ・創って消費を増やすのではなくて賢く節制しながら使うのが良いと思うから。

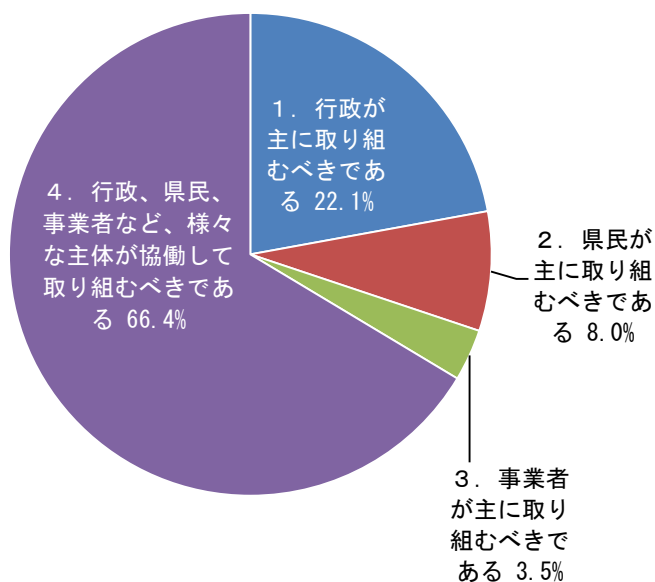
「4. エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進」を選んだ理由

- ・エネルギー問題は、どれか一つを達成できれば良いのではなく「減らす、創る、賢く使う」を同時に達成していくことが重要。

- ・3つのことを、バランスよく取り組むためにはそれを支える事が必要かと思う。
- ・関連産業として地域経済に寄与する。
- ・理論を実際の社会で具体化して、実現するには、多くの研究開発（最終製品化まで含めた）が必要となると考えるから。
- ・民間では資金的に難しかったりして手の届かないところに手をさしのべ支えるのが自治体行政の役目だと個人的に考えているため。

問8 問6のような取組は、主にどの主体が取り組むべきと思いますか。（回答チェックは1つだけ。n=375）

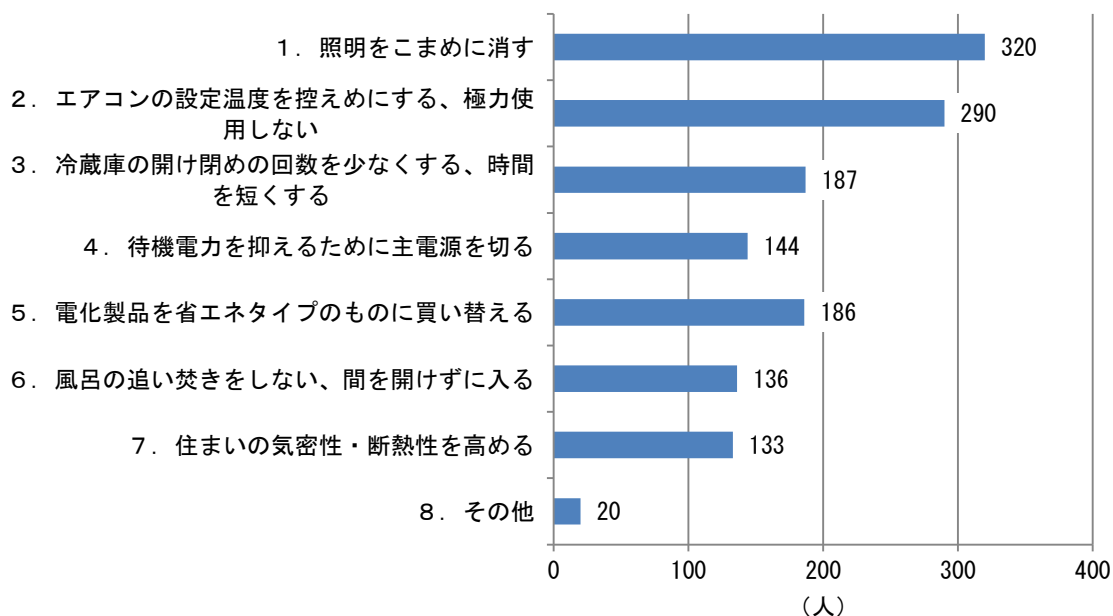
項目	人数（人）	割合（%）
1. 行政が主に取り組むべきである	83	22.1
2. 県民が主に取り組むべきである	30	8.0
3. 事業者が主に取り組むべきである	13	3.5
4. 行政、県民、事業者など、様々な主体が協働して取り組むべきである	249	66.4
合計	375	100.0



■「省エネルギー・節電の推進」についてお尋ねします。

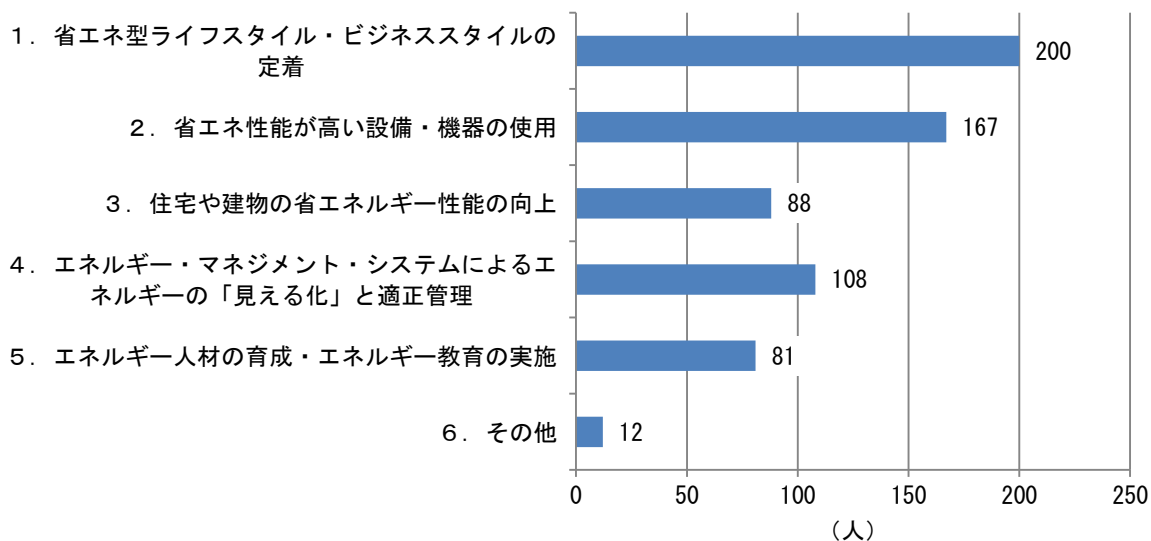
問9 あなたは、暮らしの中でどのような省エネルギー・節電を心がけていますか。(回答チェックはいくつでも。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 照明をこまめに消す	320	85.3
2. エアコンの設定温度を控えめにする、極力使用しない	290	77.3
3. 冷蔵庫の開け閉めの回数を少なくする、時間を短くする	187	49.9
4. 待機電力を抑えるために主電源を切る	144	38.4
5. 電化製品を省エネタイプのものに買い替える	186	49.6
6. 風呂の追い焚きをしない、間を開けずに入る	136	36.3
7. 住まいの気密性・断熱性を高める	133	35.5
8. その他	20	5.3



問10 今後、さらに省エネルギー・節電を推進していくために、どのような取組に特に力を入れていく必要があると思いますか。(回答チェックは2つまで。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 省エネ型ライフスタイル・ビジネススタイルの定着	200	53.3
2. 省エネ性能が高い設備・機器の使用	167	44.5
3. 住宅や建物の省エネルギー性能の向上	88	23.5
4. エネルギー・マネジメント・システムによるエネルギーの「見える化」と適正管理	108	28.8
5. エネルギー人材の育成・エネルギー教育の実施	81	21.6
6. その他	12	3.2

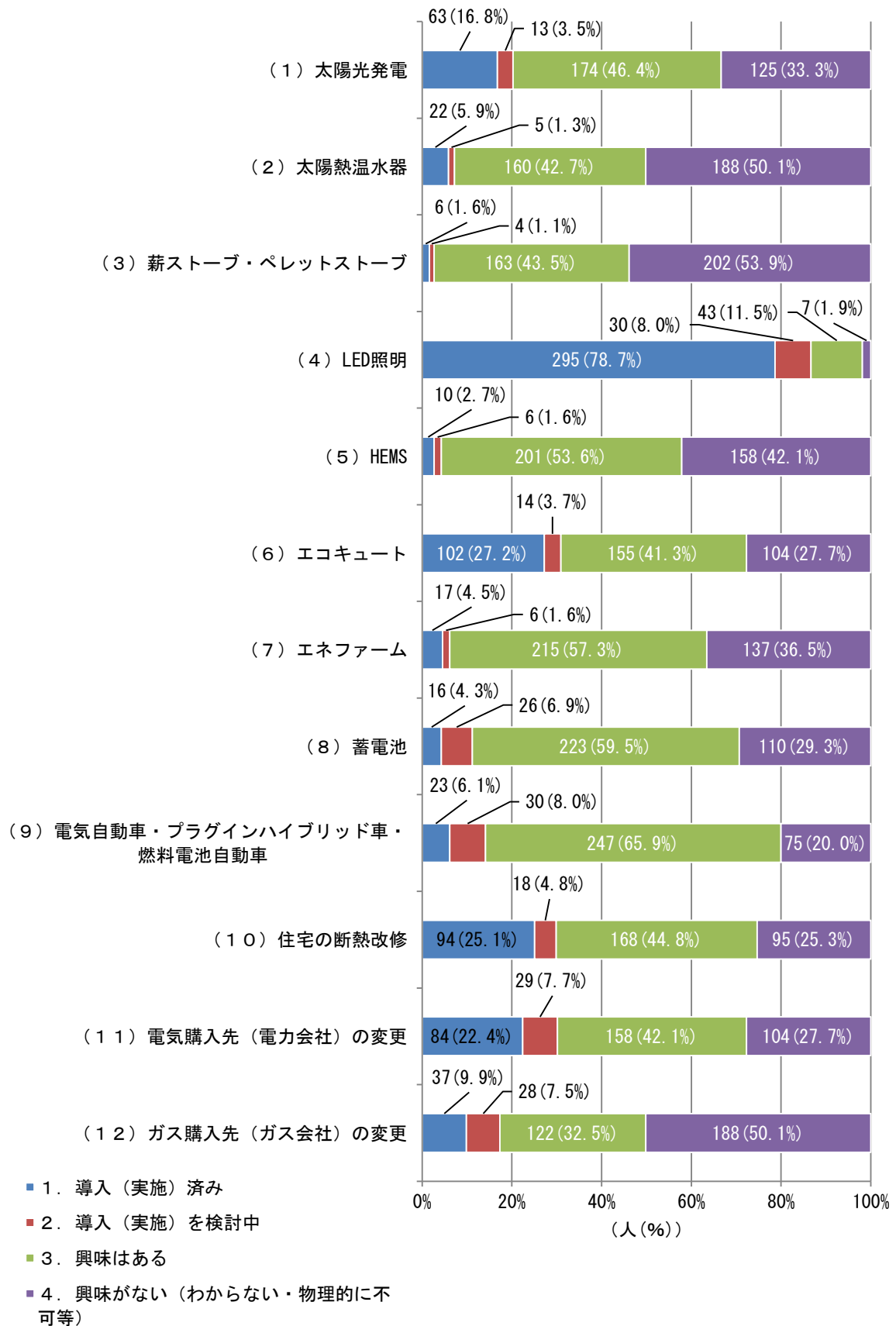


■「再生可能エネルギーの導入促進」等についてお尋ねします。

問11 あなたは、次の(1)～(12)の機器等を導入(実施)していますか。(回答チェックはそれぞれ1つだけ。n=375)

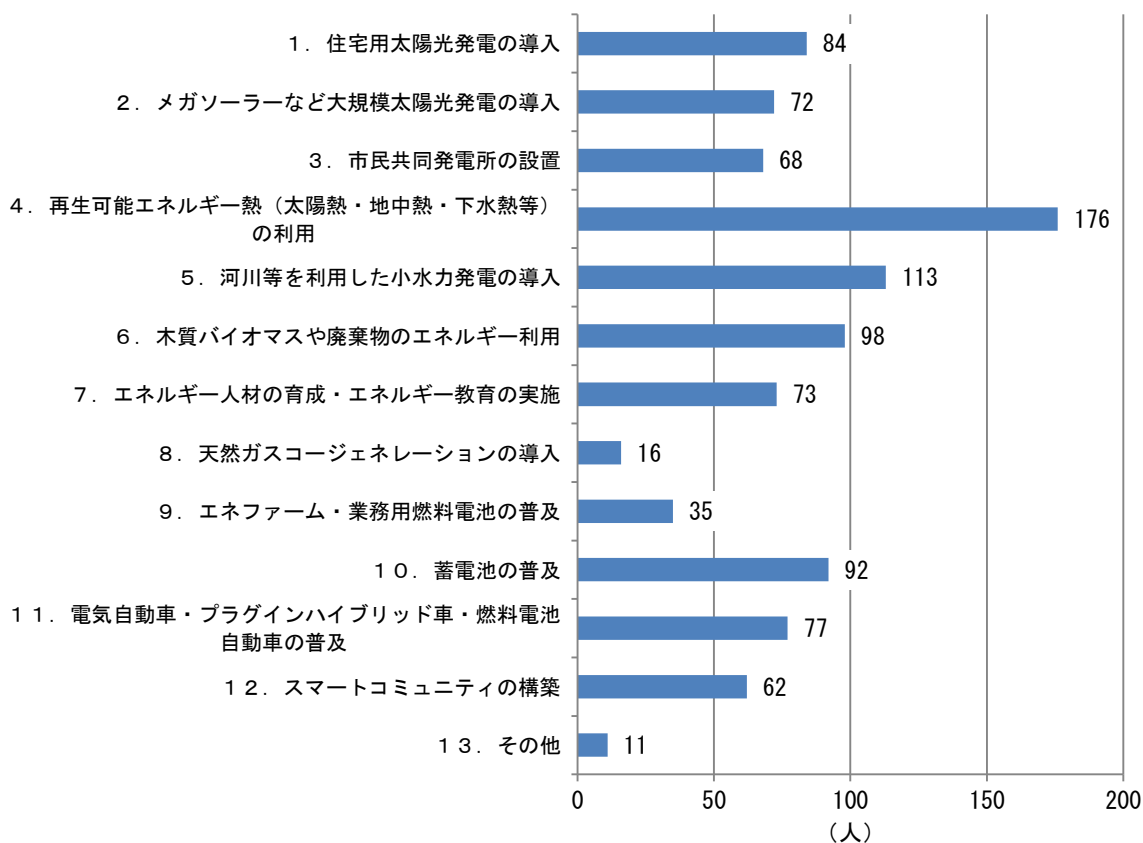
(人(%))

	1. 導入(実施)済み	2. 導入(実施)を検討中	3. 興味はある	4. 興味が無い(わからない・物理的に不可等)
(1) 太陽光発電	63	13	174	125
(2) 太陽熱温水器	22	5	160	188
(3) 薪ストーブ・ペレットストーブ	6	4	163	202
(4) LED照明	295	30	43	7
(5) HEMS(住宅向けのエネルギー・マネジメント・システム)	10	6	201	158
(6) エコキュート(自然冷媒ヒートポンプ給湯機)	102	14	155	104
(7) エネファーム(家庭用燃料電池コージェネレーションシステム)	17	6	215	137
(8) 蓄電池	16	26	223	110
(9) EV(電気自動車)・PHV(プラグインハイブリッド車)・FCV(燃料電池自動車)	23	30	247	75
(10) 住宅の断熱改修	94	18	168	95
(11) 電気購入先(電力会社)の変更	84	29	158	104
(12) ガス購入先(ガス会社)の変更	37	28	122	188



問12 今後、さらに再生可能エネルギーの導入等を促進していくために、どのような取組に特に力を入れていく必要があると思いますか。(回答チェックは3つまで。n=375)

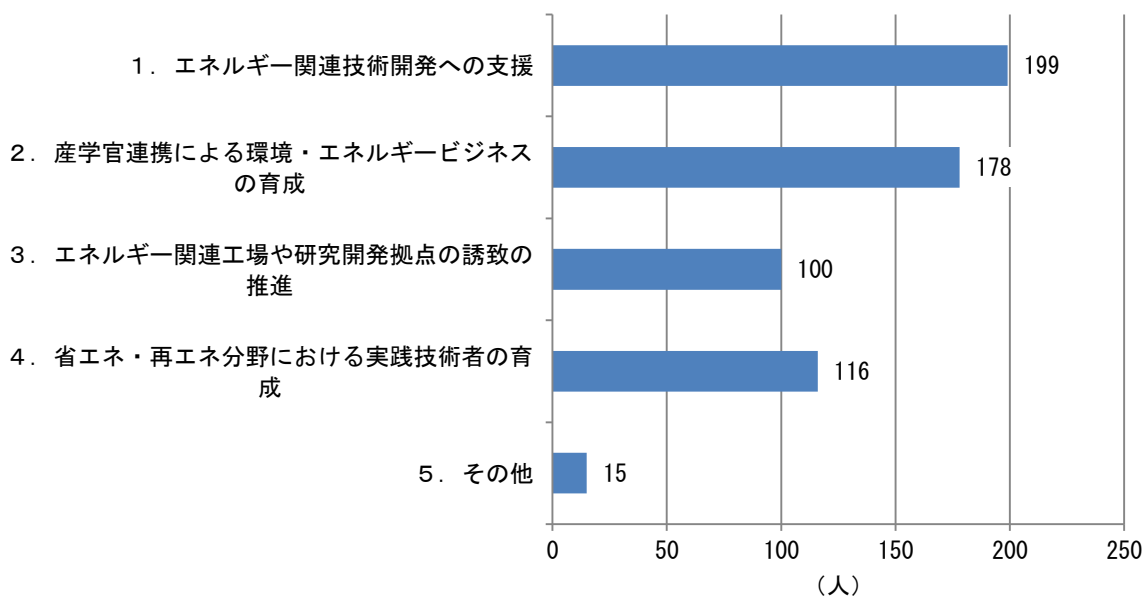
項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 住宅用太陽光発電の導入	84	22.4
2. メガソーラーなど大規模太陽光発電の導入	72	19.2
3. 市民共同発電所の設置	68	18.1
4. 再生可能エネルギー熱（太陽熱・地中熱・下水熱等）の利用	176	46.9
5. 河川等を利用した小水力発電の導入	113	30.1
6. 木質バイオマスや廃棄物のエネルギー利用	98	26.1
7. エネルギー人材の育成・エネルギー教育の実施	73	19.5
8. 天然ガスコージェネレーションの導入	16	4.3
9. エネファーム・業務用燃料電池の普及	35	9.3
10. 蓄電池の普及	92	24.5
11. 電気自動車・プラグインハイブリッド車・燃料電池自動車の普及	77	20.5
12. スマートコミュニティの構築	62	16.5
13. その他	11	2.9



■「エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進」についてお尋ねします。

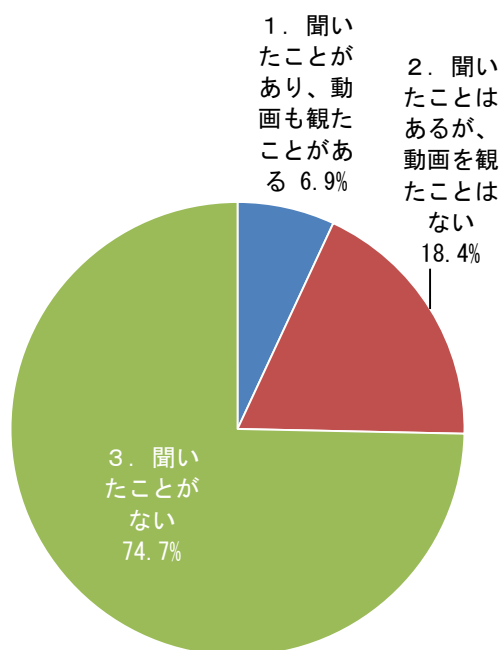
問13 今後、さらに省エネルギー・節電や再生可能エネルギーの導入等を進めていくために、どのような取組に特に力を入れていく必要があると思いますか。(回答チェックは2つまで。n=375)

項目	人数(人)	割合(%)
1. エネルギー関連技術開発への支援	199	53.1
2. 産学官連携による環境・エネルギービジネスの育成	178	47.5
3. エネルギー関連工場や研究開発拠点の誘致の推進	100	26.7
4. 省エネ・再エネ分野における実践技術者の育成	116	30.9
5. その他	15	4.0



問14 滋賀県では、県内に広がる再生可能エネルギーや省エネルギーに関する取組事例を全25回シリーズの動画「しがエネルギームーブメント！」として制作し、インターネットテレビしが（動画投稿サイトYouTube）等で動画配信しています。このことを知っていますか。（回答チェックは1つだけ。n=375）

項目	人数（人）	割合（%）
1. 聞いたことがあり、動画も観たことがある	26	6.9
2. 聞いたことはあるが、動画を観たことはない	69	18.4
3. 聞いたことがない（このアンケートで初めて知った）	280	74.7
合計	375	100.0



問15 その他、持続可能な新しいエネルギー社会の実現に向けて、御意見がありましたらお聞かせください。（抜粋）

- ・ 周囲を山々に囲まれ恵まれている、素晴らしい自然環境の滋賀県は、水力発電の建設を推進することだと思う。近い将来原発ゼロを目指すためには、ダム建設と水力発電所建設の復活を期待する。
- ・ まずは技術者の育成に対するの予算を取り中長期的に実施する必要があると思う。そして企業における助成も行い持続可能な新しいエネルギー社会実現に取り組む必要を感じる。
- ・ 新しいエネルギーについて知見が少ないので我々県民に対してもっとアピール、啓蒙活動（情報紙配布、チラシなど活用）をすることが必要と思う。
- ・ 賃貸に住んでいると、何を言われても、基本的に対応不可なのでどうもならない。賃貸物件への導入の支援をしたり、そういう物件への固定資産税の減税等考えてくれたら、導入が進むのではないか。
- ・ 出来るだけ再生可能エネルギーを多く生み出す取り組みを、県として推進していただき、化石燃料および原子力発電（特に原発）の割合を減らしてゆく必要性が高くなってきていると思う。

- ・ペレットストーブや薪ストーブを設置したい希望はあるが、ペレットや薪の購入費用がほかの暖房器具に比べて飛びぬけて高いので、この部分を助成してはどうか。
- ・再生可能エネルギーの導入促進をしていくためにも、導入の際に少しでも補助金を拠出したり、設置の際の手続きの簡略化や手助けなどが必要と思われる。
- ・県民の更なる省エネ意識の向上が大切。
- ・政府・行政が主導になり長期的な視野で地道な研究開発が望まれる。(短期研究で得られる課題とは思わない)
- ・滋賀県で大学生として生活していても滋賀県の取組を目にする機会は少なく、今回のアンケートで初めて知った取り組みがほとんどだった。持続可能なエネルギー社会を形成する為には、幅広い年齢層の注目を集める事が重要なのではと思うので、産学官の連携が深まっていけばいいなと思った。
- ・県内各地で取り組みがあっても、都市部から参加することは難しい。クラウドファンディングや、都市部でも参加できるような取り組みがあるとよいと思う。
- ・県の取り組みに市町村でもエネルギーイベントを楽しいものにしていくなどして、この取り組みの大切さを広く老若男女県民に伝えるということをしていくのもいいかと思う。
- ・県外から引っ越してきて、滋賀県の方は琵琶湖があることから水産資源を守ることへの関心がとても高く、子どももその考えに触れることが多いと感じている。この関心をベースに、水産資源以外の環境問題、そこからエネルギー問題へと関心を拡大するのは、他県よりは容易なのではないかと思う。少子化社会とはいえ子どもの数はまだ多い滋賀県では、子ども世代のことを考えた持続可能性が重要だと思った。
- ・学校でもクリーンエネルギーについて学ぶ機会が、教科書だけでなく体験型でもっとあるといいと思う。電力自由化になったが、注目は値段ばかりな気がする。再生可能エネルギーでつくられた電力なのか、原発依存の電力なのかについても、電力会社を選ぶ基準として意識付けされるといいなと思う。